

都市再生整備計画(第4回変更)

JR加古川線来住地区鉄道駅周辺地区

兵庫県 小野市

平成20年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	ひょうごけん 兵庫県	市町村名	おのし 小野市	地区名	かこがわせんきしちくくつどうまきしゅうへんちく JR加古川線来住地区鉄道駅周辺地区	面積	350	ha							
計画期間	平成	16	年度	～	平成	19	年度	交付期間	平成	16	年度	～	平成	19	年度

目標

大目標：住民が創造していくまちづくりの環境整備と観光拠点施設整備を行うことによる周辺地域の活性化

目標①住民によるまちづくり活動等を支援することにより、自己責任と自己実現の意識を醸成し、地域コミュニティの再生、形成を図る。

目標②豊かな自然を活用したレクリエーション施設、観光交流施設、安らぎの環境を整備することにより、自然との共生等水や緑を生かした観光と交流のまちづくりを推進する。

目標③地域の財産である鉄道（公共交通）駅周辺の環境整備を行うことにより、観光客及び市民の快適性の向上を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・来住地区は、市西部の鴨池を中心とした播磨中部丘陵県立自然公園を含む丘陵地と東側を流れる加古川に挟まれたわずかな扇状地に農地が広がる地域である。地区の南北を兵庫県東播磨地域の臨海部と内陸部を結ぶJR加古川線が走り、駅周辺を中心に複数の田園集落が形成されている。微増を続ける市内総人口に反して、モータリゼーションの進行、産業構造の変更等年々減少する鉄道利用者数と共に地区の人口も減少し、周辺地域の賑わいも失われている。このため、利便性の向上にと平成13年度より取り組んだ電化工事も、本年度完了した。
- ・小野市総合計画において、当地区は、緑豊かな自然環境や歴史的遺産を生かし、魅力あふれる観光、レクリエーション、安らぎのある交流空間として整備を進める地区として位置付けられている。
- ・平成13年度には、鉄道事業者、バス事業者と行政で構成するJR加古川線沿線地域活性化推進協議会が設立され、沿線の活性化策が検討されてきた。
- ・上記協議会の意見や地元意見により、駅周辺のポケット公園の整備、沿線里山のハイキングコースの整備、温泉活用施設の整備等沿線の環境整備を計画的に実施してきている。
- ・当地区は、平成8年度から実施された農地整備事業区域内で数種の希少生物が発見されビオトープ水路が設置されたのを機に、平成12年度より学校、地域住民が一体となって参加型の学習（田んぼの学校）に取組み、住民参加のまちづくり機運が盛り上がっているところである。
- ・平成14年度からは、沿線駅周辺の自治会がまちづくりアドバイザーの派遣をうけ、住民参加と公民協働のまちづくりについて、勉強会を実施している。
- ・都市再生整備計画の策定にあたり、上記自治会の勉強会において意見交換を行った。
- ・平成16年3月には、白雲谷温泉ゆびかがオープンし、年間約40万人を集客する。

課題

- ・当地区は、人口減少、高齢化が進んでおり、地域コミュニティの活力の低下が懸念される。このため、市民生活を安定させながら地域を活性化していくためには、地域住民が自ら創造していくまちづくりの推進が最大の課題である。
- ・地域間交流、集落間交流の場としての核施設が必要である。特に、温泉施設への日帰り観光客のリピーター率を高め、他の観光施設への集客率を高めるには、温泉施設の周辺に、観光交流センター、宿泊施設等の観光拠点施設の設置が必要である。
- ・農業基盤整備が完了した区域において、農地の荒廃やスプロール的な開発が行われる可能性があるため、自己責任と自己実現の原則の基、住民自らが地域の土地利用計画を検討し、良好な農林業の生産環境を保全する区域や集落の区域などを定める必要がある。また、安全にかつ快適に地域間交流を行うため道路の整備が必要である。
- ・恵まれた自然環境を有しているが、地域資源として有効に活用されていないのが実情である。里山や清流を地域の誇りとして、内外に発信するための整備を推進し、地区住民主体で管理を行う体制の整備が必要である。
- ・JR加古川線は電化事業を完了しようとしているが、駅施設及び周辺整備が不備であり、駅機能が十分活用されていない。交通環境整備を推進するとともに、利便性、快適性を向上するために、地域コミュニティの核施設が必要である。

将来ビジョン(中長期)

豊かな自然環境や鉄道等地域資源を生かし、住民自らが創造する元気あふれる田園集落

- ・小野市総合計画において、「緑豊かな自然環境や歴史的遺産を生かし、魅力あふれる観光、レクリエーション空間として整備を進める地区」「心と体の健康の維持、増進につながる、安らぎのある交流空間と施設を整備する地区」「公共交通の利用増進を図るため、沿線開発や観光レクリエーション施設の整備を進めると共に、駅前広場、駐車場、鉄道駅舎を利用したコミュニティ空間の創造など、駅周辺の整備を図る地区」と位置付けられている。
- ・小野市都市計画マスタープランにおいて、本地区周辺は、「豊かな自然資源、自然環境は自然型のレクリエーション、リゾートの場としても活用できることから、自然と調和した計画的な市街地の形成が望まれる。集落地では、市民生活に密着した生活道路、交通安全施設の整備を促進する必要がある。」とされている。

目標を定量化する指標

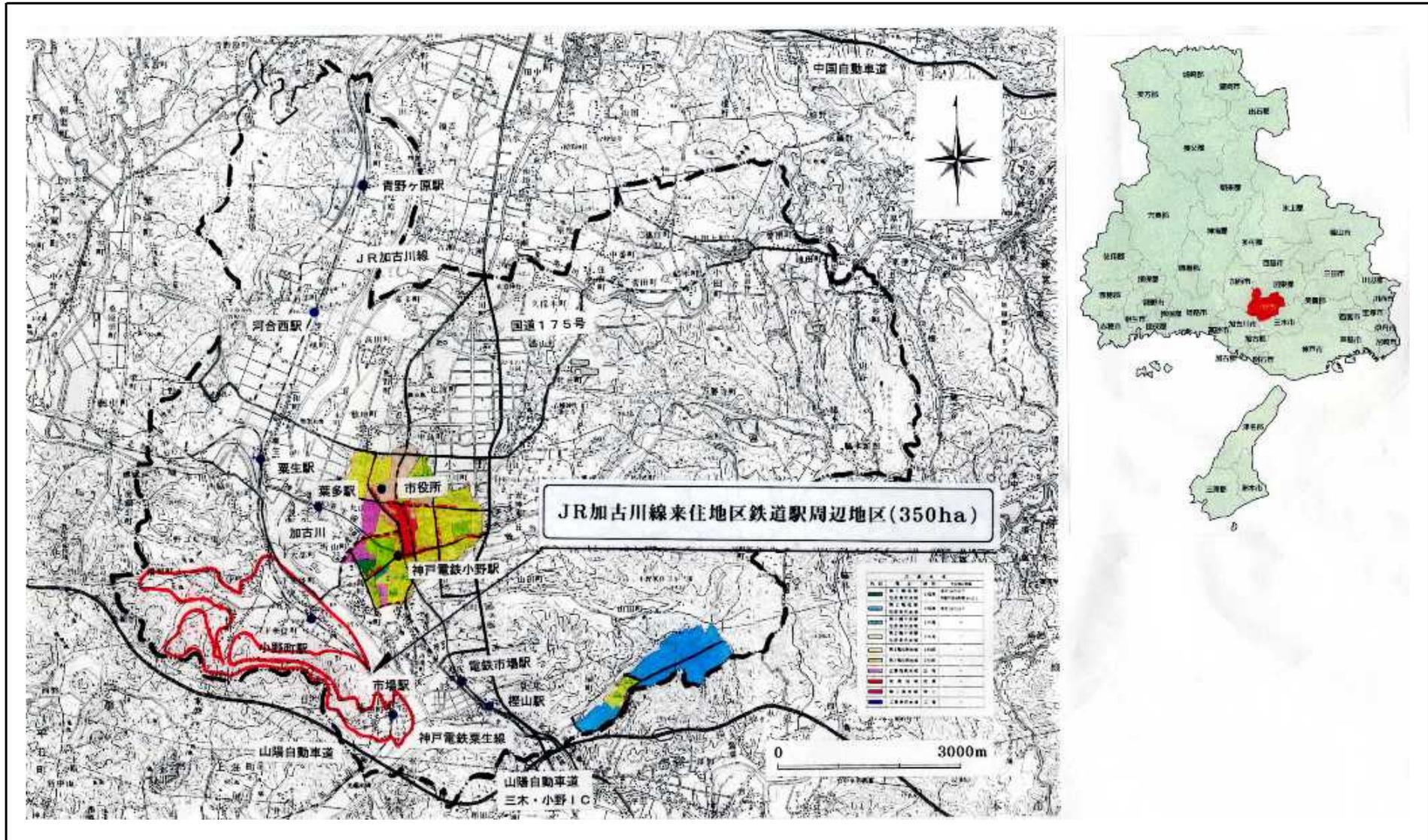
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
1. 交流センターの団体利用回数	回／年	来住地区のまちづくり活動としての交流センター活用回数	周辺地域の3団体が最低月1回は、交流センターを利用することを目標とし、まちづくり活動の推進(発展)を図る。	0	15	36	19
2. 地区土地利用計画検討会設立数	団体	来住地区の地区土地利用計画検討会設立数	地区の土地利用を検討することにより、地域のことは地域で考える習慣を身に付けさせ、住民参加のまちづくりの推進を目指す。	0	15	3	19
3. 里山整備管理組織の会員数	人	里山整備管理組織の会員数	里山の環境を地元住民自ら整備、管理し続けて行けるよう会員数を100人まで増加させることを目標とする。	11	15	100	19
4. コミュニティ施設等利用者の満足度	%	コミュニティ施設等の利用者の満足度(満足度アンケートによる)	利便性の向上を図り、コミュニティ施設、駅前広場及び道路を利用した人の60%以上が満する環境整備を目指す。	10	15	60	19
5. 年間観光客数	万人／年	年間に小野市を訪れた観光客数	観光交流センター、温泉活用施設(温浴施設)等を整備することにより、単独スポットへの日帰り観光から滞在型観光への転換を図り、観光客数の増加を目指す。	205	15	270	19

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針 1（まちづくり活動の支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・住民主体、参加のまちづくりを推進するため、住民による地区土地利用計画の策定を支援する。 ・住民主体、参加のまちづくりの推進と地域住民の交流のために、まちづくりの拠点として駅にコミュニティ交流施設を設置すると共に地元住民が維持管理できる体制を整える。 	<p>高次都市施設(基幹事業/地域交流センター) 地域創造支援事業(提案事業/ぶらりきびた) まちづくり活動推進事業(関連事業/土地利用調整システム総合推進事業等)</p>
<p>整備方針 2（自然を生かした環境整備）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビオトープ、里山等の豊かな自然を活用したレクリエーション施設等を整備することにより、安らぎの空間づくりを行うと共に、地元住民自ら整備、管理することができる環境、体制づくりを行う。 ・他都市との交流を進め、日帰り観光だけでなく滞在型観光へとシフトし、市内の各観光ポイントへの集客を図るため、観光レクリエーションの核施設を整備する。 	<p>高次都市施設(基幹事業/観光交流センター) 地域創造支援事業(提案事業/温泉活用施設(温浴施設等)) 地域創造支援事業(提案事業/森林ボランティア活動支援) まちづくり活動推進事業(関連事業/土地利用調整システム総合推進事業等) 田園自然環境保全・再生支援事業(関連事業/ビオトープ)</p>
<p>整備方針 3（交通環境の改善）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鉄道駅利用者（市民、観光客）の利便性の向上を図るため、駅舎及び駅前広場を整備し滞留や憩いの駅前空間づくりを行う。 ・歩行者（市民、観光客）の快適性の向上、交通安全性の向上を図るため、自転車歩行者道道路を整備する。 ・地域間交流の促進及び利便性の向上を図るため、道路を整備する。 	<p>道路(基幹事業) 地域生活基盤施設(基幹事業/広場、情報版) 高質空間形成施設(基幹事業/緑化施設等) 特定交通安全施設等整備事業(関連事業/道路)</p>
<p>その他</p> <p>○事業終了後の継続的なまちづくり活動 当地域では、ビオトープ、里山等の豊かな自然を活用したレクリエーション施設等を継続的に地元住民自ら整備、管理することができるよう、環境（森林）ボランティアの体制づくりを行う準備をしている。平成16年4月に代表者会のメンバーが決定。今後、精力的にボランティアの募集を行い、体制を確立していく予定。 また、市民参画による「ガーデニングシティおの」の推進を図るため、公園の花壇や駅周辺、橋など公共施設に植栽や植栽の維持管理を行っているガーデニングボランティアの活動も引き続き拡大していく。平成16年度には、ガーデニングボランティアが苗木を育成するための育苗施設を設置し、自らが育苗した苗を公共施設等に植栽する等活动は活発化している。</p> <p>下来住町においては、まちづくり協議会（きすみのまちづくり協議会）が設立され、積極的に地域づくり活動に取り組んでいる。</p> <p>○交付期間中の計画の管理について 交付期間中において各種の事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果をあげるために、市役所と地域のボランティア団体、地域の自治会が協働して、毎年、事業成果についての評価や事業の進め方の改善について検証する。その結果については、随時市民に情報公開する。</p>	

都市再生整備計画の区域

JR加古川線来住地区鉄道駅周辺地区(兵庫県小野市)	面積 350 ha	区域 来住町、下来住町、黍田町、福甸町の各一部
---------------------------	--------------	----------------------------



JR加古川線来住地区鉄道駅周辺地区(兵庫県小野市) 整備方針概要図

目標	住民が創造していくまちづくりの環境整備と観光拠点施設整備を行うことによる周辺地域の活性化	代表的な指標	地域交流センター団体利用回数 (団体)	0	(15年度)	→	36	(19年度)
			里山整備管理組織の会員数 (人)	11	(15年度)	→	100	(19年度)
			年間観光客数 (万人)	205	(15年度)	→	270	(19年度)

